2022年度 全国のクリーニング業 7万6300件

減少幅は前年度を上回る

厚労省の調査

2022年度（2023年3月末現在）、全国でクリーニング業を営むのは7万6300件で、前年度と比べ3862件（4・8％）減少した。21年度は3538件（4・2％）の減少だったので、減少幅は広がったことになる（厚生労働省の衛生行政報告例より）。

7万6300件のうち、水洗機やドライ機などの機械設備を持つ「クリーニング所」は5・7％減の2万1299件、機械設備のない「取次所」は4・8％減の5万2784件。一方で、「無店舗取次店」の営業者数は2217で、「54」増となった。

洗濯設備を持つクリーニング所のうち3498件は、おむつやパンツなどの下着類やタオル類などの指定洗濯物を取り扱う施設。21年度は3467件で、微増となる。

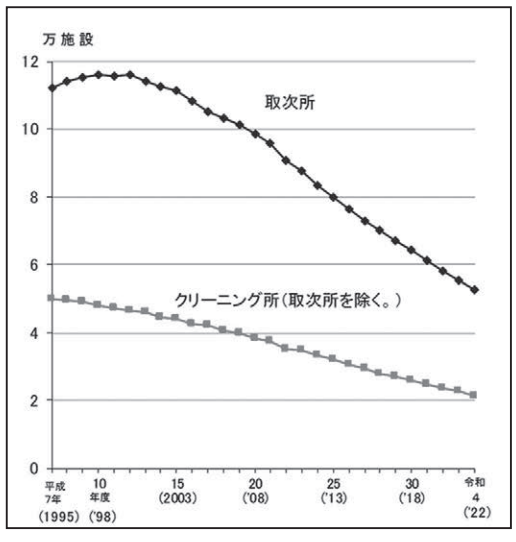
クリーニング所は、1989年（平成元年）度には5万4000近くあったが、2015年（27年）度に3万件を割り込んで以降も、減少に歯止めがかからない。

また、1998年（平成10年）度に11万6000近くあった取次所は、16年度に7万件を下回り、2020年度から5万台となった。下のグラフを見ても分かる通り、取次所の減少スピードはクリーニング所と比べても断然速くなっている。

◆直近５年のクリーニング業の推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
クリーニング業	91,942	88,105	83,700	80,162	76,300
クリーニング所	25,713	24,727	23,403	22,580	21,299
取次所	64,266	61,316	58,138	55,419	52,784
無店舗取次店	1,963	2,062	2,159	2,163	2,217

◆クリーニング業



	クリーニング業	増減	クリーニング所	増減	取次所	増減	無店舗取次店※	増減
全国	76,300	−3,862	21,299	−1,281	52,784	−2,635	2,217	54
北海道	2,953	−145	718	−18	2,104	−129	131	2
青森	724	−53	283	−17	380	−36	61	0
岩手	1,302	−72	259	−26	982	−50	61	4
宮城	1,170	−68	276	−14	809	−53	85	−1
秋田	563	5	215	4	336	1	12	0
山形	623	−26	229	−8	374	−18	20	0
福島	990	−55	361	9	593	−64	36	0
茨城	1,667	−58	484	−35	1,152	−23	31	0
栃木	1,026	−56	414	−17	558	−39	54	0
群馬	1,807	−165	421	−35	1,354	−156	32	26
埼玉	3,337	−294	1,108	−94	2,187	−201	42	1
千葉	2,693	−118	897	−57	1,740	−61	56	0
東京	8,826	−290	2,771	−181	5,925	−111	130	2
神奈川	3,763	−241	1,276	−72	2,437	−172	50	3
新潟	1,201	−57	464	−18	726	−39	11	0
富山	729	−16	201	−8	515	−8	13	0
石川	767	0	263	−6	496	−1	8	7
福井	863	−12	184	−10	675	−2	4	0
山梨	761	−13	227	−10	532	−4	2	1
長野	1,147	−51	387	−11	757	−39	3	−1
岐阜	1,521	−116	396	−20	1,080	−96	45	0
静岡	2,252	−245	760	−89	1,467	−157	25	1
愛知	4,245	−175	1,074	−57	2,867	−116	304	−2
三重	1,025	−44	268	−9	733	−36	24	1
滋賀	940	−26	155	−15	775	−11	10	0
京都	1,625	−37	555	−23	1,021	−12	49	−2
大阪	6,521	−112	1,407	−86	4,579	−27	535	1
兵庫	2,865	−233	843	−95	1,967	−134	55	−4
奈良	912	−212	190	−10	669	−202	53	0
和歌山	495	−42	169	−16	311	−26	15	0
鳥取	352	−9	111	−5	239	−4	2	0
島根	377	−15	117	−7	254	−7	6	−1
岡山	906	−159	233	−39	665	−122	8	2
広島	1,682	−43	443	−7	1,220	−39	19	3
山口	1,017	−78	213	−18	788	−60	16	0
徳島	540	−46	126	−12	414	−34	0	0
香川	732	−10	144	−8	586	−2	2	0
愛媛	874	−52	237	−26	635	−26	2	0
高知	389	−33	150	−8	239	−25	0	0
福岡	3,555	−286	675	−53	2,783	−235	97	2
佐賀	489	−60	135	−12	334	−48	20	0
長崎	1,005	−62	286	−8	707	−55	12	1
熊本	1,360	−48	284	−54	1,061	6	15	0
大分	914	120	169	16	735	103	10	1
宮崎	654	−16	234	−9	420	−7	0	0
鹿児島	972	−12	330	19	627	−31	15	0
沖縄	1,169	−26	157	−6	976	−27	36	7

※「無店舗取次店」は営業者数

また、クリーニング所の数が増えたのは大分の120増と、秋田の5増。では、鹿児島が19増、大分が16増、福島が9増、大分の増加分は、大半が103増となった取次所によるもの。

一方、全体の減少数が最も多かったのは、埼玉の294減。他に200以上減ったのは東京（290減）、福岡（286減）、静岡（245減）、神奈川（241減）、兵庫（233減）、奈良（212減）の1都6県。21年度、200超の減少は東京、埼玉、神奈川の1都2県だったので、大幅減のエリアが拡大している。

なお、今も断トツで全国最多の座をキープしている東京は今回、減少数ナンバーワンから脱却した。しかし、18年度に1万の大台を切った後、300近くもの減少が続いており、ついに8000台となってしまった。

■従事するク師、1965人減

従事するクリーニング師は1965人減の3万4869人。その一方で、22年度中にクリーニング師を取得したのは748人（21年度は908人）。

なお、21年度に1件（石川県）あった免許取り消しは、今回はなかった。

編集後記

我が家の長女は今が佳境の受験生です。年末年始は彼女を図書館まで送迎するのが日課でした。

学生時代以来の図書館は独特の静寂のなか、時が停止していたように昔と変わらない空間のままでした。変わった点は個人が勉強するスペースが拡充され、利用がデジタル予約制になっていたこと。そして、娘世代だけでなく、私と同じ中年世代が机に向かっている姿が目立ったことです。

ここ数年、社会人になってから「学ぶ」ことの重要性が言われています。昨年は「リスキリング」という用語もよく耳にしました。

日本では学習する社会人の割合が世界的にみても少なく、ある調査では「社外の学習や自己啓発をしていない」と答えた人の割合が5割以上だったそうです。2位の豪州が3割未満なので、日本の大人はダントツに学んでいないようです。

このような状況では、自ら「学ぶ」事が他者との差異性になりそうですね。といっても自宅でいきなり勉強できるかというと私も自信がないです。そんな時はまず、環境を変えましょう。図書館は有力な候補地です。学ぶだけでなく、物思いに耽ったり、目にとまった本を手に取ったり。今年はそんな時間を定期的に取るようにしたいです。